

# 結果概要

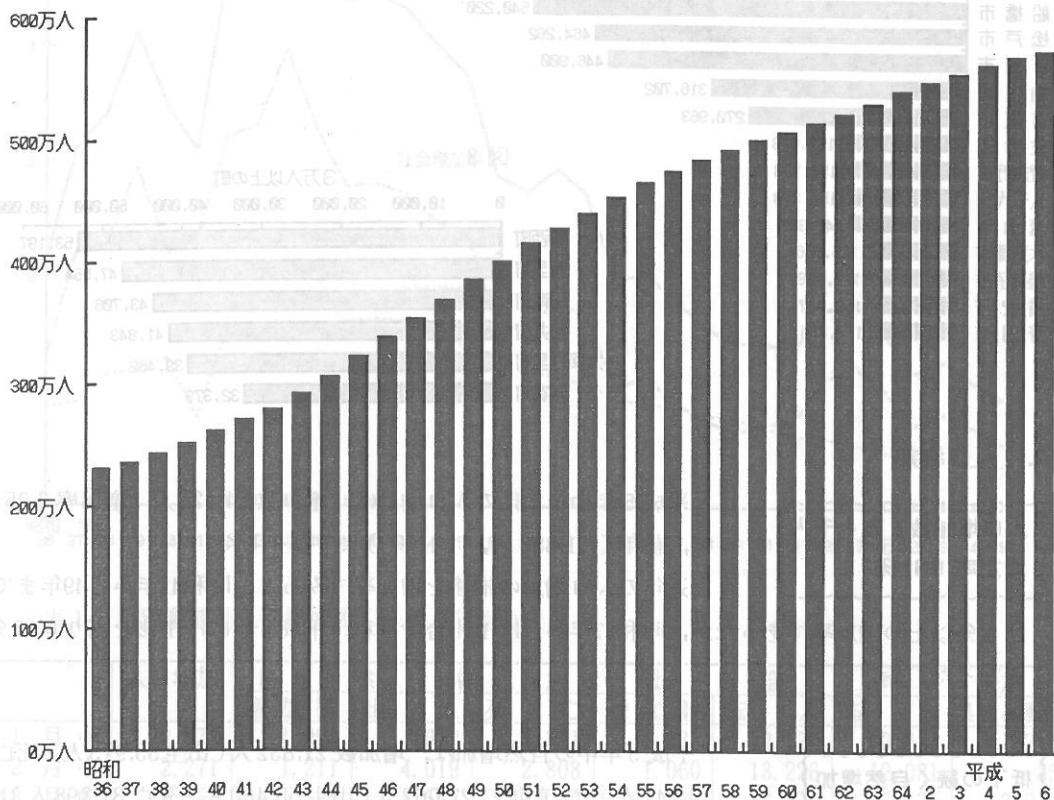
## 1. 人口総数

**県人口576万人**

平成6年1月1日現在の本県の人口は5,758,405人で、前年人口の5,703,980人に比べ54,425人、率にして0.95%増加した。

本県の人口は、大正9年10月1日現在（国勢調査）1,336,155人で、その後増加を続け、昭和22年10月1日現在（国勢調査）では200万人を超えて2,112,917人となり、昭和43年7月1日現在では300万人を超え3,011,134人となった。さらに、昭和49年11月1日現在では400万人を超え4,002,808人となり、昭和58年9月12日に500万人を突破した。

図1 千葉県人口の推移（各年1月1日現在）



平成3年11月に公表された平成2年国勢調査第1次基本集計結果によると、本県の人口は、5,555,429人で全国第7位であったが、総務庁統計局による平成4年10月1日現在推計人口では、北海道を抜き第6位となっている。

千葉市人口85万2千人  
県人口の14.8%を占める

平成6年1月1日現在の県人口を市町村別にみると、市部(30市)のうち10万人以上の市は14市あり、そのうち千葉市が85万2千人(県人口に占める割合14.8%)で最も多く、郡部人口77万6千人(同13.5%)より多くなっている。以下、船橋市54万人(同9.4%)、松戸市46万4千人(同8.1%)、市川市44万7千人(同7.8%)、柏市31万7千人(同5.5%)の順で続き、この5市で県人口の45.5%を占めている。

郡部(45町5村)では、印西町が5万3千人(同0.9%)で最も多く、以下、富里町4万8千人(同0.8%)、沼南町4万4千人(同0.8%)、白井町4万2千人(同0.7%)の順となっている。

図2

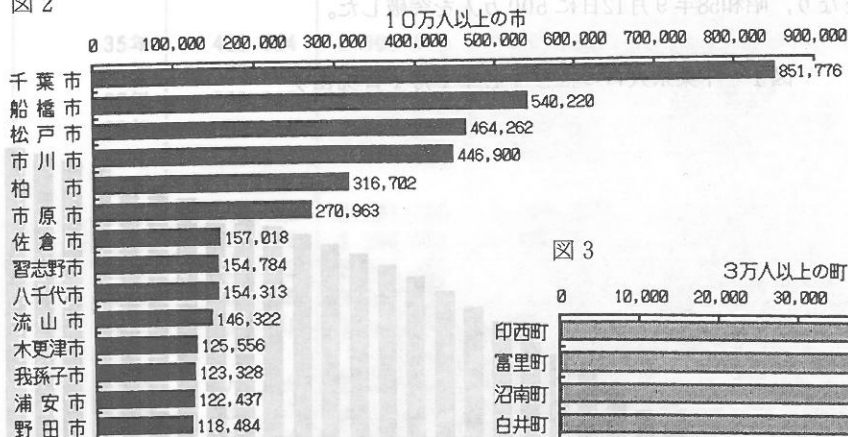
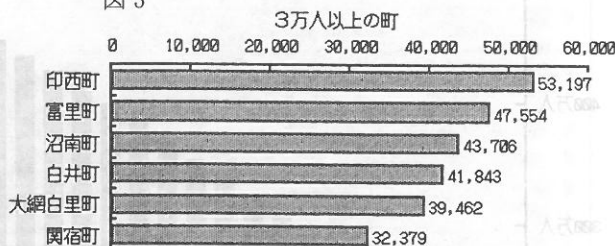


図3



## 2. 人口増加

人口増加数5万4千人  
増加率0.95%

平成5年中の本県の人口増加は、増加数54,425人、増加率0.95%で、前年(61,883人、1.10%)より減少した。

近年の人口増加の推移を増加率で見ると、昭和42年から49年までは4%以上の増加率であったが、昭和57年からは1%台で推移、平成5年には1%を割り0.95%となった。

低下の続く自然増加

平成5年中の自然増加は、増加数21,832人(出生53,973人、死亡32,141人)で、前年の22,062人(出生53,460人、死亡31,398人)に比べ出生が513人増加し死亡が743人増加して自然増加数は230人減少となった。

近年の自然増加を増加率で見ると、昭和42年から54年までは1%以上の増加率であったが、昭和55年に1%を割り、以降は低下を続けており平成5年は0.38%である。

社会増加は自然増加の約1.5倍

平成5年中の社会増加は、増加数32,593人(転入232,992人、転出202,005人、県内移動他1,606人)で、前年の39,821人(転入237,952人、転出199,539人、県内移動他1,408人)に比べ、転入

が4,960人減少し、転出が2,466人増加し、県内移動他が199人増加して、社会増加数は前年に比べ7,228人の減少となり、人口増加のうち社会増加の割合は59.9%で自然増加の割合40.1%の1.5倍近い割合となっている。

近年の社会増加を増加率でみると、昭和37年から昭和50年までは2%以上の増加率で、そのうち昭和44年は、3.97%と4%近い高い増加率であったが、昭和51年以降は1%前後の増加率で推移している。平成5年は0.57%と前年の0.71%より減少した。

図4 人口増加率の推移（昭和36年～平成5年）

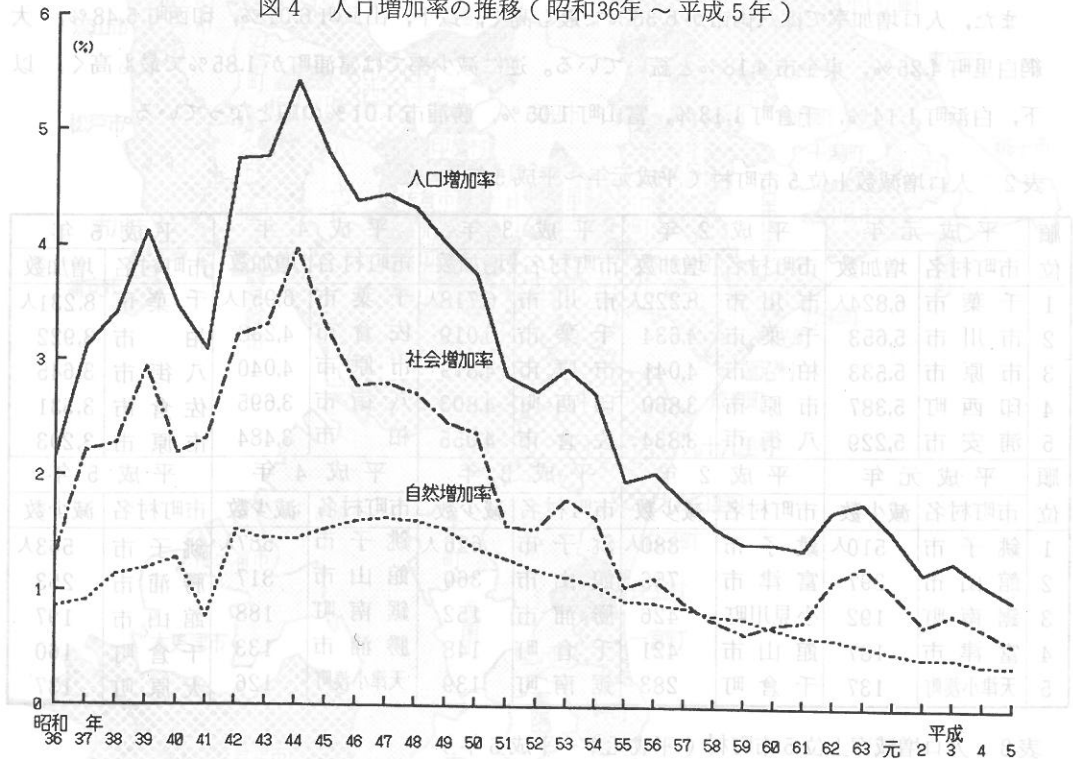


表1 月別動態別人口増加数（平成5年中）

	人口増加	自然増加			社会増加			
		増加数	出生	死亡	増加数	転入	転出	県内移動他
1月中	2,972	1,092	4,623	3,531	1,880	12,726	10,636	-210
2月中	2,271	1,211	4,019	2,808	1,060	13,226	12,081	-85
3月中	-4,362	1,524	4,593	3,069	-5,886	43,970	46,577	-3,279
4月中	22,085	1,585	4,194	2,609	20,500	39,925	23,307	3,882
5月中	5,047	1,975	4,515	2,540	3,072	15,557	12,686	201
6月中	3,518	2,248	4,612	2,364	1,270	14,814	13,709	165
7月中	3,122	2,299	4,652	2,353	823	17,506	16,500	-183
8月中	7,167	2,389	4,911	2,522	4,778	19,067	14,899	610
9月中	3,119	1,950	4,403	2,453	1,169	15,059	13,663	-227
10月中	4,364	2,139	4,573	2,434	2,225	14,905	12,925	245
11月中	2,688	1,789	4,561	2,772	899	13,292	12,482	89
12月中	2,434	1,631	4,317	2,686	803	12,945	12,540	398
計	54,425	21,832	53,973	32,141	32,593	232,992	202,005	1,606

**58市町村で人口増加**  
**八街市の増加率は6.36%**

平成5年中の人口増減を市町村別にみると、58市町村で人口が増加（平成4年中57市町村）し、22市町村で減少した。

増加数では千葉市が8,231人（県人口増加数に占める割合15.1%）

で最も多く、以下、柏市3,922人（同7.2%）、八街市3,645人（同6.7%）、佐倉市3,531人（6.5%）、市原市3,203人（同5.9%）と続いている。逆に減少数では銚子市が563人で最も多く、以下、勝浦市253人、館山市197人、千倉町160人、大原町137人の順となっている。

また、人口増加率では八街市が6.36%で最も高く、以下、山武町6.01%、印西町5.48%、大網白里町4.25%、東金市4.18%と続いている。逆に減少率では富浦町が1.85%で最も高く、以下、白浜町1.14%、千倉町1.13%、富山町1.05%、勝浦市1.01%の順となっている。

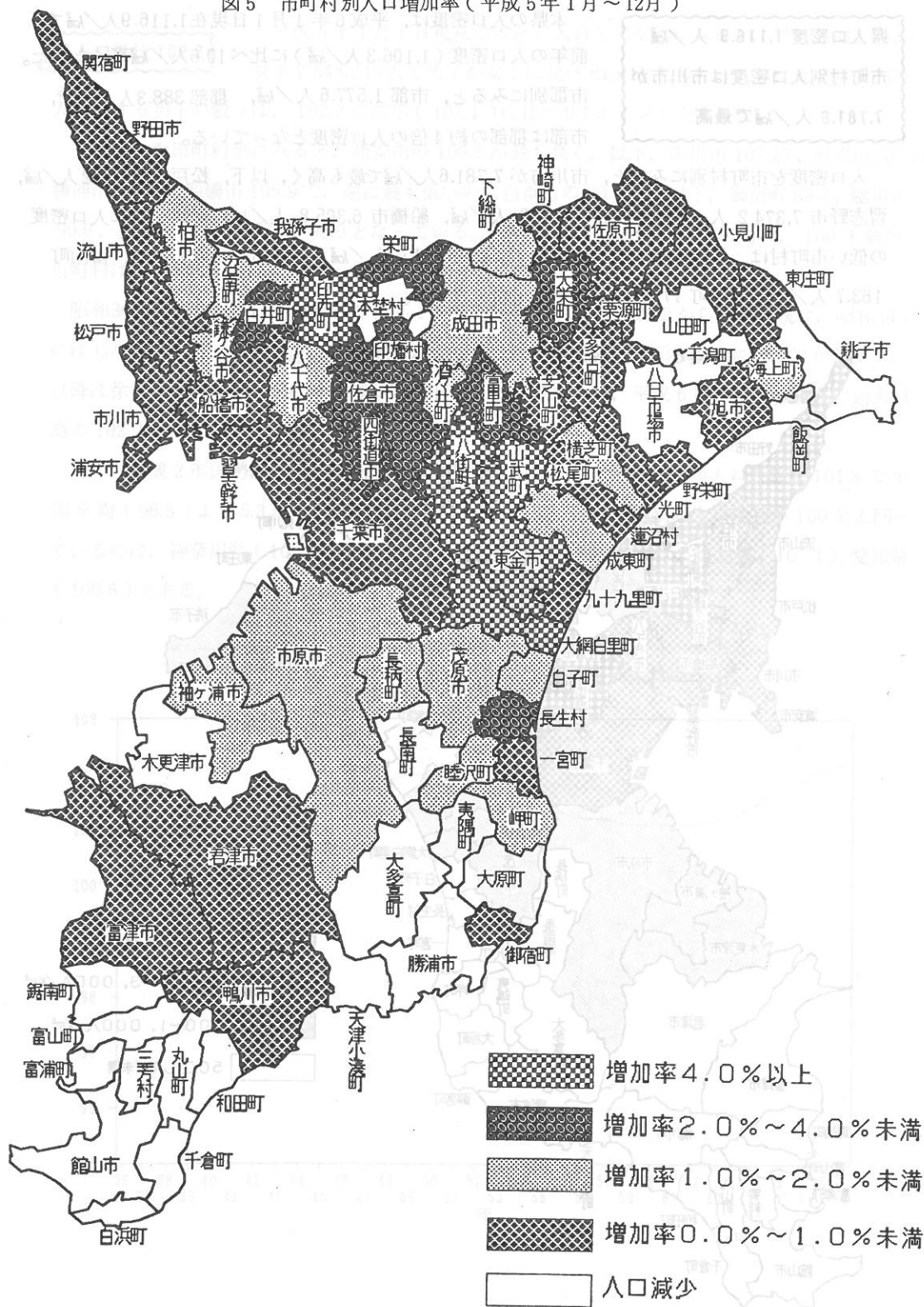
表2 人口増減数上位5市町村（平成元年～平成5年）

順位	平成元年		平成2年		平成3年		平成4年		平成5年	
	市町村名	増加数	市町村名	増加数	市町村名	増加数	市町村名	増加数	市町村名	増加数
1	千葉市	6,824人	市川市	8,222人	市川市	6,718人	千葉市	6,951人	千葉市	8,231人
2	市川市	5,653	千葉市	4,634	千葉市	6,019	佐倉市	4,238	柏市	3,922
3	市原市	5,533	柏市	4,041	市原市	4,879	市原市	4,040	八街市	3,645
4	印西町	5,387	市原市	3,860	印西町	4,803	八街市	3,695	佐倉市	3,531
5	浦安市	5,229	八街市	3,834	佐倉市	4,055	柏市	3,484	市原市	3,203
順位	平成元年		平成2年		平成3年		平成4年		平成5年	
	市町村名	減少数	市町村名	減少数	市町村名	減少数	市町村名	減少数	市町村名	減少数
1	銚子市	510人	銚子市	880人	銚子市	626人	銚子市	587人	銚子市	563人
2	館山市	397	富津市	756	館山市	360	館山市	317	勝浦市	253
3	鋸南町	192	小見川町	426	勝浦市	152	鋸南町	188	館山市	197
4	富津市	187	館山市	421	千倉町	148	勝浦市	133	千倉町	160
5	天津小湊町	137	千倉町	283	鋸南町	139	天津小湊町	126	大原町	137

表3 人口増減率上位5市町村（平成元年～平成5年）

順位	平成元年		平成2年		平成3年		平成4年		平成5年	
	市町村名	増加率	市町村名	増加率	市町村名	増加率	市町村名	増加率	市町村名	増加率
1	印西町	16.13%	山武町	9.96%	印西町	11.36%	山武町	7.26%	八街市	6.36%
2	栄町	8.43	印西町	9.06	山武町	9.10	印西町	7.08	山武町	6.01
3	山武町	7.83	八街市	8.18	白井町	5.75	八街市	6.89	印西町	5.48
4	富里町	7.28	大網白里町	5.79	八街市	5.69	大網白里町	4.25	大網白里町	4.25
5	八街市	7.26	印旛村	5.45	大網白里町	5.47	長生村	4.03	東金市	4.18
順位	平成元年		平成2年		平成3年		平成4年		平成5年	
	市町村名	減少率	市町村名	減少率	市町村名	減少率	市町村名	減少率	市町村名	減少率
1	富浦町	1.66%	鋸南町	2.01%	富浦町	1.88%	鋸南町	1.63%	富浦町	1.85%
2	鋸南町	1.59	千倉町	1.93	富山町	1.38	天津小湊町	1.48	白浜町	1.14
3	天津小湊町	1.53	富浦町	1.91	鋸南町	1.19	富浦町	1.32	千倉町	1.13
4	白浜町	1.44	天津小湊町	1.85	天津小湊町	1.16	本埜村	1.12	富山町	1.05
5	和田町	1.43	本埜村	1.60	千倉町	1.03	丸山町	1.11	勝浦市	1.01

图5 市町村別人口増加率（平成5年1月～12月）



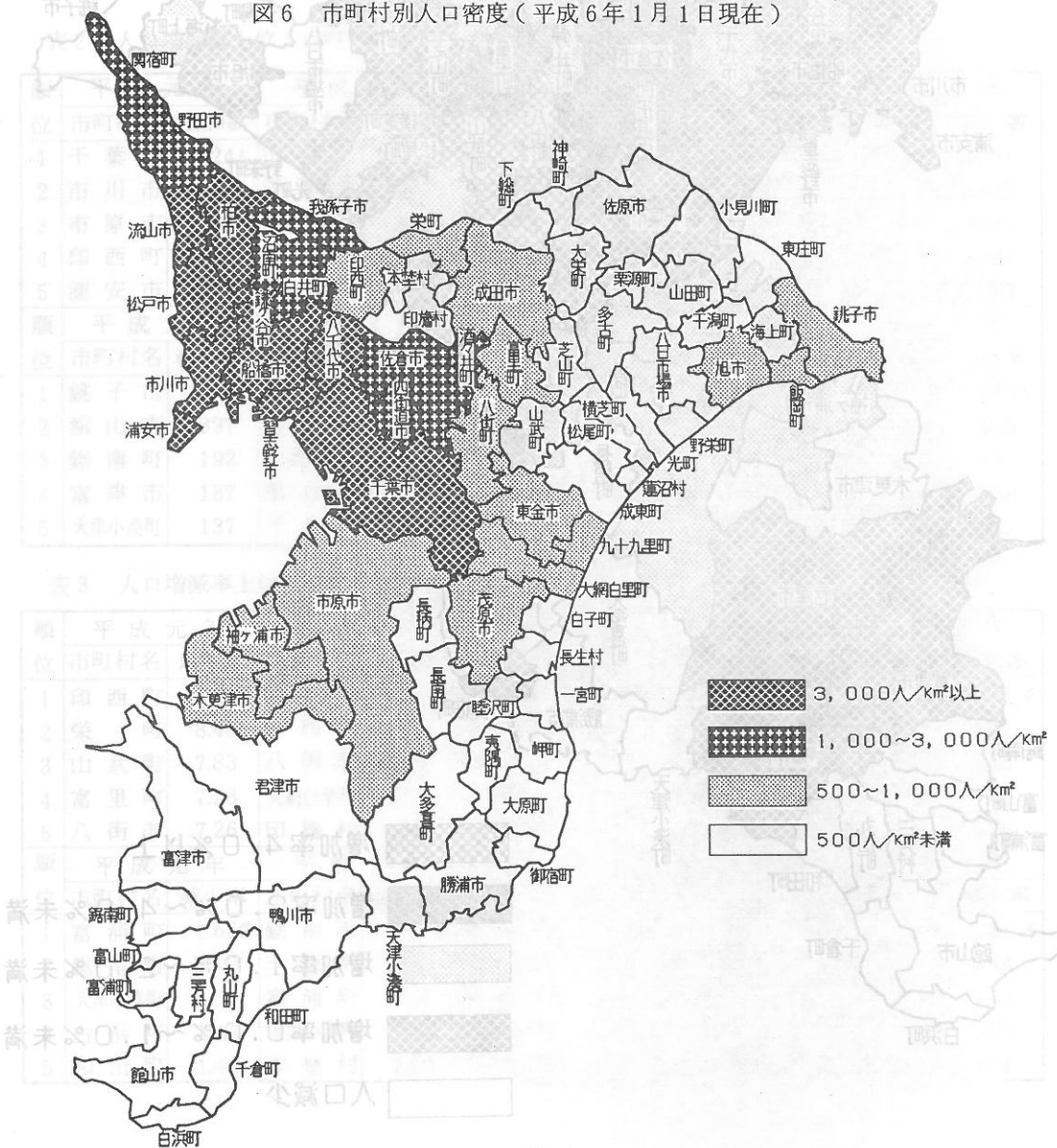
### 3. 人口密度

県人口密度 1,116.9 人/km<sup>2</sup>  
 市町村別人口密度は市川市が  
 7,781.6 人/km<sup>2</sup>で最高

本県の人口密度は、平成6年1月1日現在1,116.9人/km<sup>2</sup>で、前年の人口密度(1,106.3人/km<sup>2</sup>)に比べ10.6人/km<sup>2</sup>高くなった。市郡別にみると、市部 1,577.6人/km<sup>2</sup>、郡部 388.3人/km<sup>2</sup>で、市部は郡部の約4倍の人口密度となっている。

人口密度を市町村別にみると、市川市が7,781.6人/km<sup>2</sup>で最も高く、以下、松戸市7,566.2人/km<sup>2</sup>、習志野市7,374.2人/km<sup>2</sup>、浦安市7,077.3人/km<sup>2</sup>、船橋市6,305.8人/km<sup>2</sup>と続き、逆に人口密度の低い市町村は、大多喜町100.6人/km<sup>2</sup>、丸山町134.9人/km<sup>2</sup>、三芳村139.4人/km<sup>2</sup>、富山町163.7人/km<sup>2</sup>、長南町175.0人/km<sup>2</sup>の順となっている。

図6 市町村別人口密度(平成6年1月1日現在)



#### 4. 人口性比

県人口性比 102.2

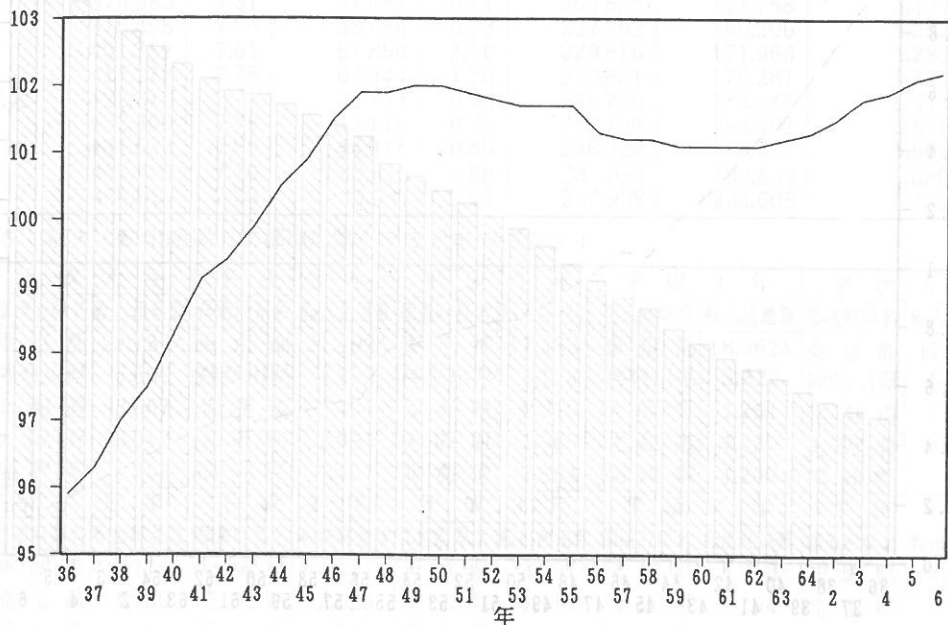
平成6年1月1日現在の本県の人口を男女別にみると、男子2,910,162人、女子2,848,243人で男子が女子に比べ61,919人多く、人口性比(女子100人に対する男子の数)は、102.2で前年(102.1)に比べ0.1ポイント上昇した。

人口性比を市町村別にみると、浦安市の109.3が最も高く、以下、市川市107.27、市原市107.26、勝浦市106.7、船橋市105.9で、逆に最も低いのは白浜町の80.3で、以下、御宿町89.2、鴨川市90.0、富浦町90.5、千倉町90.9となっている。100以上の市町村は33市町村で、100未満の市町村は47市町村となっている。

昭和36年以降の人口性比の動きを各年1月1日現在でみると、95.9から上昇し続け、昭和44年にはじめて男子人口が女子人口を上回り、人口性比が100を越え、昭和50年には102.0となり、以降は徐々に低下したが、昭和63年以降は再度上昇傾向にあり、平成6年1月1日現在で過去最高の102.2となった。

なお、平成2年国勢調査によると、平成2年10月1日現在で、千葉県の人口性比は101.8で全国平均(96.5)より5.3ポイント高くなっている。また、都道府県別に人口性比が100を上回っているのは、神奈川県(105.5)、埼玉県(102.7)、千葉県(101.8)、東京都(101.4)、愛知県(100.6)である。

図7 人口性比(昭和36年～平成6年、各年1月1日現在)



3. 人口密度

5. 世帯数

平成6年1月1日現在  
 県世帯数197万3千  
 1世帯当たり人員は  
 2.92人

平成6年1月1日現在  
 在の本県の世帯数は  
 1,972,900世帯で、前  
 年の世帯数1,927,627

世帯に比べて45,273世帯増加し、増加率では  
 2.35%となり、人口増加率0.95%よりも高い  
 率となっている。

1世帯当たり人員は2.92人で、前年の2.96  
 人に比べ0.04人減少した。また、1世帯当  
 たり人員を市町村別にみると、干潟町の4.63人  
 が最も多く、以下、本埜村4.37人、印旛村

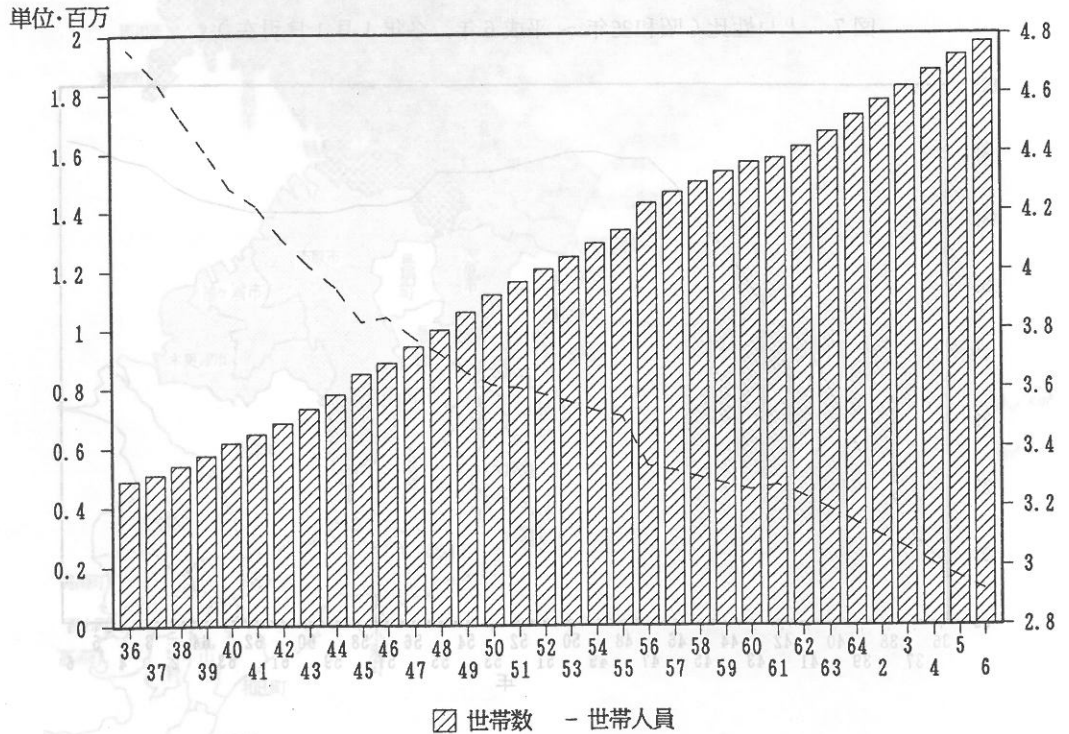
4.36人、山田町4.28人、東庄町4.02人と続き、逆に最も少ないのは市川市の2.46人で、以下、  
 浦安市2.49人、習志野市2.68人、船橋市2.69人、成田市2.70人の順となっている。県の1世  
 帯当たり人員より少ないのは11市町で、多いのは69市町村となっている。

表4 月別世帯増加数(平成5年中)

	増加数	転入	転出	その他
1月中	1,542	6,436	5,206	312
2月中	972	6,649	6,175	498
3月中	2,760	20,809	18,628	579
4月中	20,205	24,773	9,153	4,585
5月中	4,010	8,689	5,833	1,154
6月中	2,401	8,005	6,796	1,192
7月中	2,199	8,923	7,476	752
8月中	3,012	8,650	6,568	930
9月中	2,416	8,144	6,713	985
10月中	2,799	7,589	5,958	1,168
11月中	1,832	6,769	6,068	1,131
12月中	1,125	6,285	6,057	897
計	45,273	121,721	90,631	14,183

注 その他は、県内間の転入転出、死亡世帯及び  
 職権による記載・消除等をいう。

図8 世帯数及び世帯人員数の推移(各年1月1日現在)





6. 県外との人口移動

人口移動総数43万5千人  
移動率 7.58%

平成5年中の県外との移動者総数（転入者数と転出者数の和）は434,997人で前年の437,491人に比べ2,494人減少し、移動率（平成5年7月1日現在人口に対する移動者総数の割合）は7.58%と、前年の7.70%に比べて0.12ポイント低下した。

3万1千人の転入超過  
転入超過率 0.54%

平成5年中の県外からの転入者数は232,992人（前年237,952人）転出者202,005人（同199,539人）で、転入超過数30,987人（同38,413人）となり、転入超過数は7,426人減少した。

また、転入超過率は0.54%と、前年の0.68%に比べて0.14ポイント低下した。なお、県外との関係は35の都道府県から転入超過となり、11県へは転出超過となっている。

表5 年次別他都道府県間人口移動総数（昭和51年～平成5年）

年次	移動数	移動率	転入超過数	転入超過率	転入数	転出数	千葉県人口 (各年7月1日現在)
昭和	人	%	人	%	人	人	人
51	395,618	9.32	64,794	1.53	230,206	165,412	4,243,084
52	401,583	9.22	66,377	1.52	233,980	167,603	4,356,869
53	414,340	9.23	78,872	1.76	246,606	167,734	4,489,284
54	418,499	9.07	72,337	1.57	245,418	173,081	4,613,881
55	408,174	8.63	64,082	1.35	236,128	172,046	4,729,412
56	396,669	8.24	53,043	1.10	224,856	171,813	4,811,265
57	390,800	7.97	43,598	0.89	217,199	173,601	4,901,182
58	382,451	7.67	37,587	0.75	210,019	172,432	4,984,555
59	374,500	7.40	33,154	0.66	203,827	170,673	5,060,124
60	374,583	7.31	31,067	0.61	202,825	171,758	5,127,278
61	376,498	7.24	38,086	0.73	207,292	169,206	5,202,569
62	401,782	7.61	57,850	1.10	229,816	171,966	5,283,115
63	417,118	7.75	64,544	1.20	240,831	176,287	5,380,759
平成元	422,316	7.72	54,224	0.99	238,270	184,046	5,471,257
2	432,300	7.79	43,116	0.78	237,708	194,592	5,546,610
3	431,533	7.69	44,911	0.80	238,222	193,311	5,608,760
4	437,491	7.70	38,413	0.68	237,952	199,539	5,680,470
5	434,997	7.58	30,987	0.54	232,992	202,005	5,735,511

表6 転入・転出超過上位都道府県（平成元年～平成5年）

順位	平成元年		平成2年		平成3年		平成4年		平成5年	
	都道府県名	転入超過数	都道府県名	転入超過数	都道府県名	転入超過数	都道府県名	転入超過数	都道府県名	転入超過数
1	東京都	27,739人	東京都	21,492人	東京都	17,433人	東京都	18,362人	東京都	17,215人
2	神奈川県	5,669	神奈川県	4,392	神奈川県	5,128	神奈川県	5,322	神奈川県	5,273
3	北海道	3,567	北海道	2,401	福岡県	2,310	大阪府	1,751	北海道	1,497
4	大阪府	3,019	大阪府	2,091	大阪府	1,965	北海道	1,486	大阪府	1,146
5	福岡県	1,702	福岡県	1,407	北海道	1,854	福岡県	1,203	福岡県	616
順位	平成元年		平成2年		平成3年		平成4年		平成5年	
	都道府県名	転出超過数	都道府県名	転出超過数	都道府県名	転出超過数	都道府県名	転出超過数	都道府県名	転出超過数
1	茨城県	3,719人	茨城県	4,191人	茨城県	4,797人	茨城県	4,318人	茨城県	4,058人
2	埼玉県	1,189	埼玉県	2,526	埼玉県	1,112	埼玉県	794	埼玉県	807
3	栃木県	52	栃木県	350	栃木県	194	栃木県	190	栃木県	355
4	—	—	—	—	山梨県	6	山梨県	29	宮城県	237
5	—	—	—	—	—	—	—	—	長野県	155

## 7. 人口重心

人口重心は千葉市畑町付近  
北北東へ移動

本県の人口重心は、平成6年1月1日現在で、千葉市畑町付近（JR総武線新検見川駅から北北東方向約1.5km地点）の東経140度5分12秒・北緯35度39分32秒の位置にあり、平成2年国勢調査

（平成2年10月1日現在）時点より北東方向に約200m移動した。

大正9年の人口重心は、市原市瀬又付近で、その後県の北西部の人口増加に伴い、人口重心も北西方向に移動してきた。昭和45年以降は徐々にその進路が、東京方向から千葉県内陸方向に変化してきた。

注）人口重心とは、人口の一人一人が同じ重さを持っているとして、地域内の人口を1点で支えて平衡を保つことのできる点をいう。これは人口の地域分布状況を集約して示す指標の一つである。なお、千葉県の人口重心の計算にあたっては、県内各市町村の人口重心がそれぞれ現在の市町村役場にあると仮定した。

表7 千葉県の人口重心の推移（大正9年～平成6年）

年次	東 度	分	秒	北 度	緯 分	緯 秒	移動距離 km	位 置
大正9年	140	12	38	35	32	25	—	市原市瀬又569番地100付近
大正14年	140	12	24	35	32	49	0.8	千葉市誉田町2丁目37番付近
昭和5年	140	12	23	35	33	12	0.7	千葉市誉田町2丁目29番付近
昭和10年	140	12	22	35	33	29	0.5	千葉市誉田町1丁目1002番付近
昭和15年	140	12	9	35	33	50	0.7	千葉市平山町1049番付近
昭和22年	140	11	30	35	34	7	1.1	千葉市平山町地先付近
昭和25年	140	11	24	35	34	18	0.4	千葉市平山町1413番地付近
昭和30年	140	10	57	35	34	44	1.0	千葉市平山町62番地付近
昭和35年	140	10	8	35	35	23	1.7	千葉市仁戸名町1番地付近
昭和40年	140	8	19	35	36	45	3.7	千葉市貝塚町192番地付近
昭和45年	140	6	43	35	37	34	2.9	千葉市轟町3丁目4番付近
昭和50年	140	5	52	35	38	20	1.9	千葉市小仲台6丁目28番20号付近
昭和55年	140	5	27	35	38	53	1.2	千葉市小中台町1396番付近
昭和60年	140	5	15	35	39	10	0.6	千葉市朝日ヶ丘2541番付近
平成2年	140	5	8	35	39	28	0.6	千葉市畑町662-180付近
平成6年	140	5	12	35	39	32	0.2	千葉市畑町431付近

資料：大正9年～平成2年は、国勢調査結果による。（各年10月1日現在）

平成6年は、千葉県毎月常住人口調査結果による。（1月1日現在）

近  
0度  
査

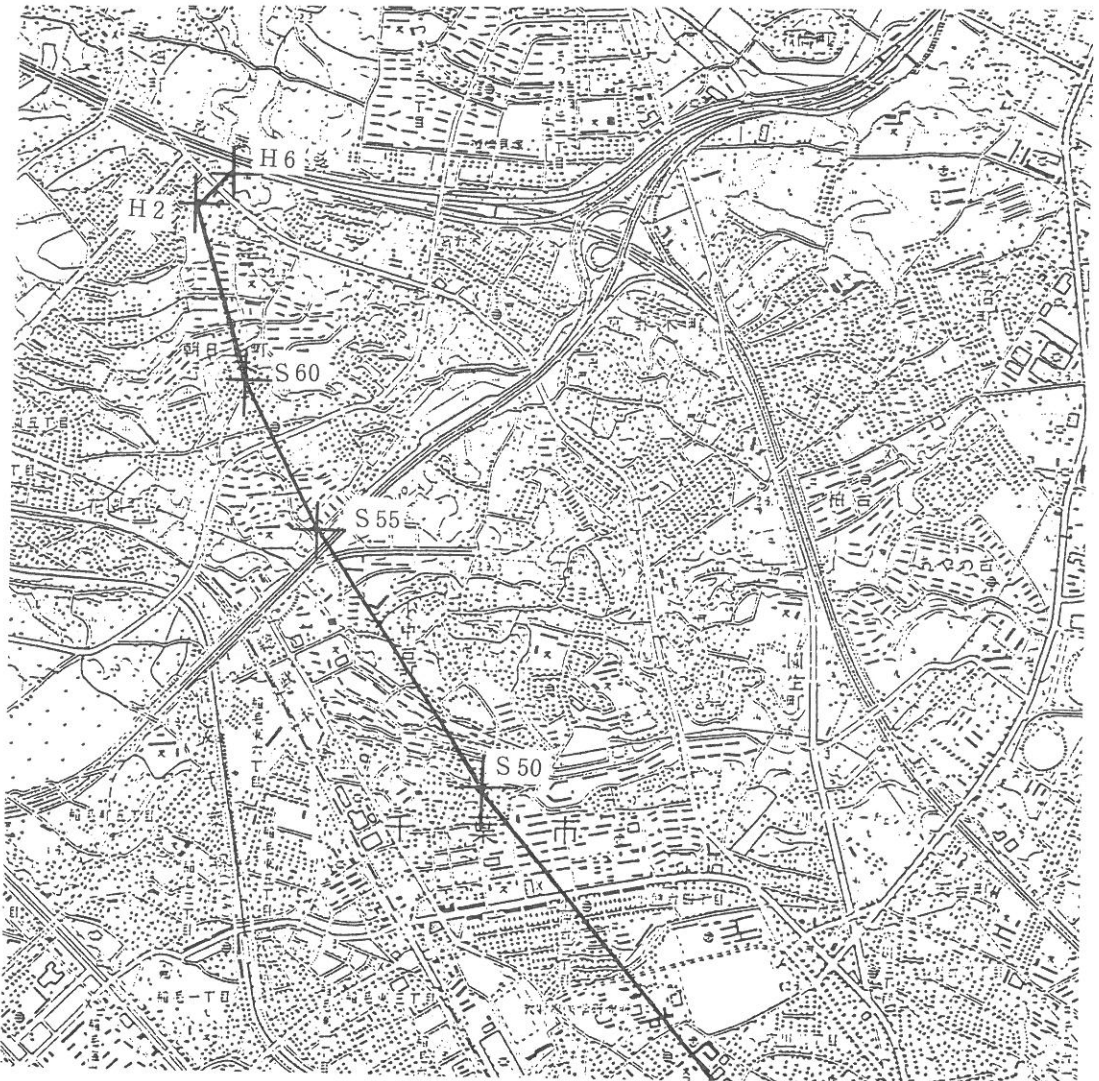
も  
変

支  
り  
れぞ

図9 人口重心の移動  
(大正9年  
～平成6年)



図10 人口重心の移動  
(昭和45年～平成6年)



近

付近